

令和4年度 あすなろの家 事業計画

令和3年度も2年度同様、コロナにより行動や活動の制限がされることの多い1年だった。そのような中でも「動く」をキーワードとして、「本物のケア」「本物の接遇力」「本物の繋がり」「私たちが」についてやり方を変えてやれる方法で活動を行ってきた。

本物のケアについては、ESRによる介護技術指導を全体に行う講義と個別の実技指導を予約制として、「この方のこのケアの自信が無い、上手くできない」の解消に繋がるように取り組みを少しだけ変えてみた。自立支援介護の知識習得に関してはSC委員会による自立支援介護の在宅事例検討を通じた学習会と会議の中で自立支援介護の基本講座を年間で4本必須にしていくことで、職員にとって基本知識が復習できると同時に、新しい職員の学習の場の確保へつながった。また、インカム、介護ソフトについてもうまく活用できている。

本物の接遇力については☆1委員会中心に「中身もカッコいい接遇」を目指しすすめてきた。上半期は特養職員にインタビューを行い、イライラしてしまう場面についてや、その状況をどのように自分の中で対処しているのか等を聞き取り、自分たちの対応について見直したり、意見交換をする機会を設けた。下半期はウエルカムコーナー、ウエルカムボードの充実や、笑顔大集合の看板作り等を行い、楽しみながら接遇面を意識させるような取り組みを行ってきた。また、部署ごとで「小さな目標」の中に接遇について入れる部署も増え、全体的には接遇に関する意識は上がってきているように感じている。

本物の繋がりに関しては、前年度に引き続き思うような活動はできない中ではあったが、ひかりサロンでのレッツポール体操、カフェすまいる、ケアハウスによるでんでん体操等、感染予防に気を配りながら毎月の支援も開催することが出来た。また、職員からアイデアを募り開催に繋がった、「集まらないウォークラリー」夏、冬2回挑戦することができた。参加者の多さに戸惑いながらも、ロ々に「久しぶりに楽しかった」「ありがとう」と声をかけていただき、笑顔と元気をたくさん作りだすことができ、職員も久しぶりに充実感、達成感、ワクワク感を感じることができた。

どの項目に関しても、たくさんのご指摘どおり、まだまだ完成には程遠く課題は山積みみではあるが、20年以上かけて作ってきたあすなろの家の力が、予想もしなかった逆境の中、前を向いて冷静に判断し進んでいくことができたそんな1年だったのではないかと。

特養は待機者数が以前に比べ減少、淘汰される時代の到来が予想される。通所、ひかりサロン、ショートは提供内容の工夫、外への情報発信等の努力の結果が出始めているのか？利用率は少しずつ伸びてきている。訪問は人員確保困難が続いており多数の依頼ケースを断っている状況である。人員確保に関しては全体的に厳しく、退職者が出て補充はできないのが現状。他、光熱費、ガソリン、食材等の高騰による必要経費増、コロナや職員処遇改善についての届け出関係の事務負担増等も対応していかなければならない大きな課題として残った。

令和4年度も引き続き、「本物のケア」「本物の接遇力」「本物の繋がり」「私たちが」の4つの柱を大切に進めていく。ポイントとしては、本物のケアは介護職はもちろんだが、介護職以外も自分が担っている業務をプロ化していくこと。本物の接遇力は言葉を大切に取扱うこと。今まで重ねてきた意識を繋ぎ、地域のピカイチ接遇を目指していく。本物の繋がり、あすなろの考えている事の発信強化とコロナ禍でもワクワクすることを！あすなろの存在が地域を元気にしていくような活動を続けていく。私たちが主体性のある職員育成となるが、あすなろの進みたい方向性を理解しようとする、なぜやるのか、なぜやっているのか、まで深く考える場面を増やしていく。

職員不足の問題、あすなろの地域という概念を拓げていくことにも取り組んでいく1年とする。

- 1、設備 ・職員用トイレ改装 ・ベッド 車いす
- 2、人材育成 ・新人事制度導入（キャリアパス・成長支援シート・考課者面談・施設長面談）
- ・内部研修（年間20程度）・新人研修・ESR主催介護技術研修・考課者研修
- ・☆1主催接遇関係研修・リーダークラスの育成強化・月1回の部署会議の充実
- 3、人材確保 ・新人事制度導入・実務者研修支援制度・5連休制度継続・柔軟な勤務体系
- ・小学生夏休みあすなろの家へ来てみよう インスタ活用 ライフサポートメイト
- ・あすなろの仕事の魅力
- 4、地域行事 ・和出張相談・ファミマ何でも相談会・S型訪問、活動支援・カフェすまいる
- ・参観会・納涼祭・七夕竹飾り出展・港まつり総踊り参加・山原山清掃（年2回）
- ・山原盆踊り参加・飯田まつり参加・飯田生涯学習館祭り参加・山原秋祭り参加
- ・地区防災訓練参加・S型テスタップ懇談会開催・山原・飯田地区調理実習支援
- ・飯田小運動会見学・飯田小音楽会見学・ボランティアさん調整
- ・集まらないウォークラリー・レッツポール体操・Hikariひろば
- ・ケアハウスでんでん体操、エコクラフト教室

5、防災

- ・委員会開催 6回／年開催 防災訓練内容打合せ・非常用備品確認・BCP打合せ
- ・防災訓練 特養 1階・2階それぞれ2回・年実施
- ケアハウス 地震・火災訓練、非常口・防災備品確認訓練2回／年実施
- デイ 地震・火災訓練、非常口・防災備品確認訓練2回／年実施
- ・山原自治会との合同訓練
- 地区防災の日に合わせて、共同での訓練実施

6、各事業

特養

- ・ご利用者を自立支援介護で元気に。願い想いを叶えるような取り組みを。そして当たり前のこと寝起きや食事の時間を自由にすることに挑戦する。何があっても慌てない、焦らない対応力を身につける。コロナ禍で繋がりが希薄になる時代だからこそ、ご家族や地域との繋がりを大切にする。介護職の楽しさも発信

ショート

- ・自立支援介護で在宅復帰継続。下剤、眠剤ゼロ。落ち着いた雰囲気作り、日中、過ごす空間の工夫。自立支援介護の事例を全国に発信し自立支援介護を行っている施設と繋がる。喫茶店、居酒屋、家庭菜園販売に挑戦！

デイ

- ・SHIGOTO、パワリハ、自立支援、メンズデイ それぞれのデイブランドを確立させる。どの時間どの場所を切り取られても、丁寧語丁寧な対応を。インスタ活用、多世代への体験会を実施したくさんの人にデイの活動を知ってもらう

ヘルパー

- ヘルパーは在宅生活を支えるプロ、人生の最期を自宅で…施設で…そこに向かうまでを自立支援介護で支援する。良いケアは最大の接遇力、それは一人ひとりのご利用者を知ること、何のために訪問しているかを理解して活動する。ヘルパーは地域に一番近い存在だからこそ、高齢者だけでなく地域の課題をいち早くキャッチして、ご利用者、ご家族、地域、あすなるの家を繋ぐパイプ役になる。

居宅

- できる限り在宅で自立した日常生活を継続できるように支援する。自立支援介護の知識、技術の修得を目指し「あすなるなら安心」と思ってもらえるようなケアマネジメントや事業展開を行っていく。ご利用者とケアマネの想いが伝わる内容のケアプランを作る。地域へ「外へ出る」きっかけを発信、提供、企画

ケアハウス

- 安心、安全、自立の継続。ケアハウスに来るとなんだか気分がいいよね、雰囲気がいいよねと感じていただけるよう、気持ちのこもった温かみのある言葉を。ケアハウスに幅広い世代の方が足を運んでくれるよう、ワクワクするような企画を実行する。

厨房

- 「おいしそう！食べたい！食べよう！と感じて笑顔になれる食事」「このくらいなら食べれるしょ！」ではなく、その人にあった食事を出せることがプロ。そのためには、その人を知ること仕事の一部。いつものメンバー、いつもの場所、閉鎖的な環境ではある「言葉を大切に扱うこと」を意識していくためにも、新しい取り組みとして他部署交流を行い、厨房をピカイチ接遇へ！厨房職員発信で何ができるだろうか？を考え伝えていく。私たちが食を通して沢山の笑顔を引き出し、食の大切さをご利用者、地域の方に繋げていく。

ひかりサロン

- ご利用者にあわせたポール体操、スラックレールの提案、元気になっていることを実感できる外出企画。ひかりサロンはあすなるの顔、クルーはひかりの顔、地域のピカイチ接遇を。レッツポール体操、S型デイとの交流、Hikariひろば開催

7、令和4年度各事業部目標数値

サービス名	目標利用率
特 養	99%以上（空床日数174日）
ショート	95%以上（19名/日以上）
デ イ	85%以上（30名/日以上）
ヘルパー	15ケース/日以上
居 宅	36ケース/1人
ケアハウス	100%以上（空床日数 0日）
厨 房	納入金額・業者の見直し・冷凍野菜の活用
ひかりサロン	70%以上（17名/日以上）